

令和7年度第1回地方独立行政法人さんむ医療センター評価委員会

第1 開催日時及び場所

令和7年7月29日（火）午後2時02分～午後2時45分

山武市役所3階大会議室

第2 出席した委員

旭中央病院名誉院長

村上 信乃

監査法人長隆事務所 代表社員

長 隆（オンライン出席）

成田赤十字病院名誉院長

加藤 誠

社会福祉法人太陽会 理事長

亀田 信介（オンライン出席）

国際医療福祉大学大学院教授

井上 智子（オンライン出席）

城西国際大学薬学部教授

懸川 友人

第3 欠席した委員

山武市三師会 会長 花城 実

第4 出席した関係職員等

山武市

市長 松下 浩明

副市長 上大川 順

保健福祉部長 竹宮 哲哉

健康支援課長 鵜澤 秀己

健康医療係長 鈴木 清文

母子保健係長 清水 美代子

成人保健係長 須田 彩

健康支援課主事 砂川 真里奈

さんむ医療センター

理事長 坂本 昭雄

院長 篠原 靖志

副院長 西森 孝典

副院長 石川 哲大

副院長 太田 義人

医療技術部長 鈴木 豊

看護部長 井上 純子

医療安全対策室長 岩澤 紀子

事務長 小川 雅弘

事務次長 新國 雅一

副看護部長 山本 早百合

総務課長 齋藤 洋一

経理課長 海保 一利

医事課長 松本 譲

経営企画室長 加瀬 智哉

地域医療連携室長 丸 弘一

薬剤課長 斎藤 達也

リハビリテーション課長 鶴岡 高宏

検査課長 岩崎 康裕

人事課長補佐 戸倉 輝明

第5 会議概要

1. 開 会

2. 山武市長あいさつ

3. 地方独立行政法人さんむ医療センター理事長あいさつ

4. 議 題

(1) 地方独立行政法人さんむ医療センターにおける令和6事業年度業務実績の評価に関する意見について

(2) 財務諸表等への意見について

5. 閉 会

第6 会議資料

資料1 地方独立行政法人さんむ医療センター

令和6事業年度の業務実績に関する報告書（小項目評価）

資料2 地方独立行政法人さんむ医療センター

令和6事業年度業務実績評価に関する資料

資料3 財務諸表等 令和6年度（第15期事業年度）

〔財務諸表、決算報告書、事業報告書及び監査報告書〕

◎開 会 （午後2時02分）

○司会 お待たせいたしました。本日はお忙しい中、さんむ医療センター評価委員会にお集まりいただき、ありがとうございます。本日の司会進行を務めさせていただきます、山武市健康支援課の鈴木と申します。よろしくお願いします。

開会に先立ちまして、松原委員におかれましては、一身上の都合により辞任届の提出がございましたので御報告いたします。委員の補充はありませんので、評価委員は現在7名でございます。

また、本日の評価委員会ですが、先ほど委員長より、事務局及び報道関係者の写真撮影並びに録音することについて、あらかじめ許可をいただいておりますことを御報告いたします。

それでは、ただいまから令和7年度第1回地方独立行政法人さんむ医療センター評価委員会を開会いたします。

◎松下市長あいさつ

○司会 開会に際しまして、松下市長より御挨拶いたします。

○松下市長 それでは、御挨拶させていただきます。令和7年度第1回地方独立行政法人さんむ医療センター評価委員会の開催に当たり、委員の皆様方には、お忙しい中、御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。厚く御礼を申し上げます。

さて、委員の皆様方に御指導いただきまして、昨年、新しいセンターを開院することができました。御存じのとおり、さんむ医療センターは前身であります国保成東病院として開院した当時から、地域の中核病院として市民から愛され、必要とされてきた大切な病院でございます。ただ、このたびの新センター建て替え整備事業などに伴い、長期借入金が大幅に増加をいたします。市といたしましては、新しく生まれ変わったさんむ医療センターが地域に密着した病院として、さらに住民の生命及び健康を守っていただくことができるよう、今後もしできる限りの御支援、御協力をしてまいる所存でございます。

本日は、令和6年度の事業評価及び財務諸表について等につきまして、評価委員の皆様方の御意見を求めるものになります。よりよいさんむ医療センターの維持向上に向けて、委員各位の忌憚のない御意見をいただければと思っておりますので、何とぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○司会 ありがとうございます。

◎地方独立行政法人さんむ医療センター理事長あいさつ

○司会 続きまして、地方独立行政法人さんむ医療センター坂本理事長より御挨拶いたします。

○坂本理事長 評価委員の先生方におかれましては、猛暑の中、お集まりいただき、またオンラインでも参加をいただきまして、誠にありがとうございます。

当センターは昨年の9月に新病院をオープンいたしました。この場をお借りしまして、委員の先生方、山武市並びに山武市議会の皆様方に厚く御礼申し上げます。

一方、病院の経営状況が非常に厳しく、2年続けて赤字となり、経営責任を果たせなかったことを深くおわび申し上げます。

本日は御審議のほどよろしくお願いいたします。

○司会 ありがとうございます。

本日、花城委員におかれましては、所要のため事前に欠席する旨の報告を受けておりますことを御報告いたします。

本日の出席委員数は6名です。地方独立行政法人さんむ医療センター評価委員会条例第7条第2項の規定により会議が成立いたしますので、これより議事を進めさせていただきます。

ます。

◎議 事

○司会 議事進行につきましては、当評価委員会条例第7条第1項の規定により、委員長が議長となりますので、村上委員長、よろしくお願いいたします。

○村上委員長 それでは、早速ですが、お手元の次第に沿って議題を進めてまいります。

議題1、2は関連した内容となっているので、一括して説明をお願いします。では、さんむ医療センターから説明をお願いします。

(1) 地方独立行政法人さんむ医療センターにおける令和6事業年度業務実績の評価に関する意見について

(2) 財務諸表等への意見について

○小川事務長 さんむ医療センター事務長の小川でございます。

それでは、私から議題の(1)から(2)までを一括で説明させていただきます。

恐縮ですが、着座にて説明させていただきます。

まず、当センターの6年度決算について御説明させていただきますので、財務諸表を御覧ください。右上に令和7年7月29日評価委員会説用と書かれましたA4の冊子となります。まずA4の冊子を御覧いただければと思います。

こちらのA4の資料でございますが、損益計算書と貸借対照表の説明用に、前年度と比較できるよう表示してございます。また、金額の単位は千円単位でまとめてございます。

令和6年度は第15期事業年度となります。期間は令和6年4月1日から令和7年3月31日でございます。

それでは1ページ目を御覧いただければと思います。左側に番号が振ってありまして、まず45番を御覧いただきたいと思います。令和6年度の当期純損失は15億1,768万9,000円の赤字となりました。主な収益でございますが、3番、入院収益は、患者数が421人増え、平均単価は1,182円増えたことにより、前年度と比べ7,333万円の増となりました。

4番の外来収益は患者数が249人増え、平均単価が38円増えたことにより、前年度と比べ1,016万円の増となっております。

5番、その他医業収益は、分娩休止による減により、5,034万円の減となりました。

8番、補助金等収益は9,806万円の減でした。主な要因としましては、千葉県新型コロナウイルス感染症対策事業補助金の減によるものでございます。

以上により12番、営業収益は1億6,060万円増の53億9,934万円となりました。

次に、2ページを御覧ください。医業費用となります。

3番、給料及び手当は7,732万円増で、年度末時点での各職種別の増減状況を理由の欄に記載してございます。

また、14番、医療消耗備品費及び、23番の消耗備品費の主な増減理由は新病院移転に伴うものでございます。

24番、光熱水費は、電気使用料が3,740万円増となりました。

31番、委託費の主な増減理由は移転等業務委託が5,484万円、カルテ・レントゲンフィルムの移設業務が1,054万円、CTの移設が699万円、医療機器移設1,382万円、その他引越して1,354万円となります。

そのほかに医事の外来業務2,275万円とシステム関係で655万円ということになります。

37番、費用に係る控除対象外消費税が2,873万円の増となっております。消費税に関するものは貸借対照表にもございますが、6年度は病院建設が終了しましたので、建物や医療機器等の支払いを行ったため、消費税を多額に支払ってございます。そのことによる費用等が非常に大きくなっているところでございます。

44番、建物減価償却費が1億9,829万円の増。

47番、器械備品減価償却費が1億6,444万円の増となっております。

次に、3ページを御覧ください。一般管理費になります。

3番の給料及び手当は職員5名の増と併せまして、移設に伴う時間外勤務手当等により、2,143万円の増となりました。

一方で6番、賃金は非常勤職員の減により511万円の減となっております。

34番、一般管理費合計は3,990万円増の4億288万円となりました。

申し訳ありませんが、1ページに戻っていただきまして、1ページの中段になります。医業費用、一般管理費合わせて25番の営業費用合計は、9億2,926万円増の62億4,806万円となります。

33番、営業外収益合計は、28番にあります長期借入金の利息、山武市負担分の増により、4,712万円増の1億3,411万円。

一方で41番の営業外費用合計は、35番の建て替え整備事業償還利息の増により、7,614万円増の1億4,368万円となります。

なお44番、臨時損失でございますが、7年度に予定しておりますアスベストの除去費用と、旧病院解体事業費の2割、また固定資産に係る減損額に対する固定資産除却となります。

以上が損益計算書の説明となります。

次に4ページをお開きください。4ページの貸借対照表の資産の部となります。

3番、5番につきましては、新病院の建築が終了したことに伴う増となっております。

また、9番については医療機器の購入に伴う増となります。

12番、有形固定資産合計が55億6,029万円増の109億5,051万円となりました。

18 番の長期前払い消費税は 10 億 1,192 万円が今年消費税として発生しております。長期前払い消費税は 7 年度以降 5 年間で償却を行ってまいります。

25 番、現金及び預金ですが、建物や医療機器等の支払いがあったことから、6 億 8,659 万円減の 27 億 8,691 万円となっております。

28 番、未収入金はコロナ関係の補助金がなくなったことによる減となります。

以上により 37 番、資産合計は 59 億 1,077 万円増の 158 億 9,245 万円となります。

続きまして、5 ページを御覧ください。5 ページが負債の部となります。

6 番、長期借入金ですが、病院建て替え整備事業と医療機器購入分により、63 億 1,466 万円の増。

7 番、退職給付引当金は、当年度分の引当金積み増し分により 6,602 万円の増となっております。

14 番、1 年以内返済予定長期借入金ですが、令和 7 年度に支払い予定の病院建て替え整備事業と医療機器の返済予定元金でございます。

また 21 番、資産除去債務は、令和 7 年度に実施予定のアスベスト除去工事となっております。

以上により、23 番、負債合計は 74 億 2,845 万円増の 133 億 8,934 万円となります。

また 26 番、資本金合計ですが、不要になった旧病院建物を出資団体である山武市が出資の権利を放棄したことにより、設置団体出資金が 13 億 2,533 万円の減となります。一方で、同額を 27 番、資本剰余金に振替を行っております。そのため 30 番、資本剰余金は同額が増ということになります。

以上により、36 番、負債純資産合計ですが、59 億 1,077 万円増の 158 億 9,245 万円となっております。

以上が財務諸表の説明となります。

続きまして、令和 6 事業年度の実績の自己評価の説明をさせていただければと思います。資料 1、令和 6 事業年度の業務実績に関する報告書、A 3 判を御覧いただければと思います。時間に限りがございますので、大、中、小項目のうち、特に事業の実施が図られている評価 A のもの、逆にあまり実施が思わしくない評価 C のもの、あるいはトピック的なものについて御説明させていただきます。

まず 3 ページを御覧ください。3 ページ、最下段の（1）地域医療構想区域における役割・機能でございます。最後にありますが、周産期医療では助産師不足のため、令和 6 年 2 月より、分娩受入れを休止しており、役割を果たせていないため、自己評価としては C をつけさせていただいております。なお、助産師数でございますが、令和 6 年 3 月が 9 名、令和 7 年 3 月が 5 名という状況でございます。

次に、4 ページです。3 段目の（4）救急医療・急性期医療の充実でございます。新病院へ移転準備のため、輪番当番を他病院に交代してもらった関係上、昨年度と比較して減少しております。したがって、こちらについては C 評価とさせていただいております。

す。

また、4段目の救急医療の実施状況も、移転に伴う影響のための減少でございまして、併せてC評価とさせていただきます。

次に、5ページを御覧ください。5ページ1段目の（5）周産期医療の充実でございます。助産師不足により分娩受入れを休止しているが、助産師の募集を行っていること、また、産後ケア事業を開始したことがありましたので、こちらはC評価とさせていただきます。また、2段目の分娩件数でございますが、実績がゼロでしたので、D評価ということにさせていただきます。

5ページ、最下段の紹介率でございますが、移転に伴い、救急車の受入れが減少した影響もあり、目標値を下回っております。こちらはC評価とさせていただきます。

次に、6ページを御覧ください。6ページ1段目のイ 在宅医療の推進でございます。総合診療医を増やすことができ、訪問診療、訪問看護とも目標を大きく上回る実績となりました。こちらについては、A評価とさせていただきます。

次に、5段目の医療相談件数でございますが、新病院移転後に相談が増えたこともあり、目標値を上回る実績となりましたので、A評価とさせていただきます。

次に、7ページを御覧ください。7ページ、6段目のア 医師の人材確保、④でございます。専攻医4名を常勤医師として受け入れたこと、8名の研修医を受け入れたこと、また、総合診療科専門医研修プログラムによる医師を2名採用したことから、A評価とさせていただきます。

下から4段目、医療職の人材確保の医師数でございますが、こちらについては内科3名、耳鼻科2名の増による影響から、こちらで結果的に3名増ということになっております。

次に、8ページを御覧ください。8ページの1段目と2段目ですが、奨学金制度を設け、認定看護管理者、特定認定看護師の受講が終了したこと、研修制度による職員への支援を進めたことによりA評価とさせていただきます。

次に、5段目のクリニカルパスの普及でございますが、分娩受入れによる休止の影響が出て、昨年度実績より大きく減少してございます。こちらはC評価とさせていただきます。

次に、6段目、骨粗鬆症リエゾンサービス委員会の活動でございます。世界骨粗鬆症デーライトアップイベントの実施や、小中学校、自治体などへ訪問をして啓発活動を行い、教育と医療の連携を図る活動が実施され、十分に組み合わせたと考え、A評価とさせていただきます。

次に、下から2段目です。ア ITシステムの導入等の①でございます。こちらについては、HPKIカードの納品遅れによりまして、電子処方箋運用開始について、継続対応中でございますので、C評価とさせていただきます。

次に、9ページを御覧ください。9ページ最下段の（2）診療待ち時間の改善でございます。紹介率については、5ページで御覧いただきましたが、目標を下回っているため、

こちらについてもC評価とさせていただいております。

次に、10 ページを御覧ください。10 ページの最下段の（４）患者・来院者の利便性向上でございますが、新病院となり、デジタル掲示板の活用や駐車場係を増員し、案内を行う等の取組を行い、利便性の向上を目指してございます。そんな中、医事システムの不具合により３日間会計処理ができなかった事案がございましたので、C評価とさせていただきました。

次に、13 ページまで飛んでいただければと思います。13 ページの（１）市の保健・介護行政との連携でございます。２段目の細項目アの項目で、山武市の乳児健診について、小児科外来と連携して行ったこと。市町の定期予防接種の業務委託契約を受託し実施したこと。インフルエンザ予防接種についても集団接種を行い、予防接種を積極的に行ったことから、A評価とさせていただきました。

６段目の細項目オの項目で、居宅介護事業につきましては、主任ケアマネ１名を配置し案内相談を行いました。前年度より５６名減少したため、C評価とさせていただいております。

７段目の細項目カの項目で、産後ケア事業を近隣市町と契約の上、地域の産後ケアの取組を進めております。産後ケアの利用件数でございますが、令和５年が２件、令和６年については６９件と大幅に増加していることから、A評価とさせていただいております。

次に、15 ページを御覧ください。15 ページの下から４段目になります。（２）の職員の職務能力の向上、細項目のウでございます。新人教育プログラムに沿った教育を実施したこと。研修用シミュレーターの活用、インターネット配信による研修や講座の受講が可能となり、自己課題に向けた学習ができる環境を整備したことから、A評価とさせていただいております。

次に、16 ページ、４段目、（５）職員の就労環境の整備、細項目エの項目でございます。復職支援プログラムの対象職員７名ごとにそれぞれ策定し、復職支援を実施したことから、A評価とさせていただきました。

資料１の説明は以上となります。

○村上委員長 以上、議題１、２を一括して意見を求めています。今の議題１、２について、意見はありませんか。

○亀田委員 この日本中の病院が傷んでいる状況の中で、新しい病院への移行という特殊な環境が重なっておりますので、今回のデータをどういうふうを読むかというのは非常に難しいと思います。先週、日本病院学会があつて、行ってきたんですが、やはり日本中の病院の経営状況が相当悪いという中で、今、新しい形になって、このぐらいのデータであれば上等じゃないかと思いますが、ここからどうやって頑張っていくかだと思っています。新しい体制になったので期待をしているところで、どこも建設費が高過ぎてみんな諦めて

いるか、暗い話しかなかったんですけれども、さんむ医療センターは新しい病院に変わったということで、時期的にもぎりぎりのところでよくやり遂げたと思うんですけれども、頑張っていたきたいと思います。

○村上委員長 ありがとうございます。

そのほか、何か御意見ありませんか。長先生、何かございますか？

○長委員 財務諸表を見て、切替え時期で大変だと思いますけれども、大変よく経営されたと思っています。全体的に立派な業績であるというふうに判断いたしました。

○村上委員長 ここでC評価が出ているのは、周産期ができなかったということがかなりいろいろな足を引っ張っていると思います。しかし、全体の赤字についてはしょうがない問題だから、我々がどうこういうことではないと思います。加藤先生、御意見ございますか。

○加藤委員 私も同意見でして、当院、成田赤十字病院でもかなりの赤字を出しておりますので、新しい病院をつくって、数字そのものはよろしいのではないのでしょうか。今年度、令和7年度以降、どうなるかというのを見守りたいと思っております。以上です。

○村上委員長 今の説明で、A評価とC評価については説明がありましたが、これについて御意見ございますか。全体的にはみなさんこれでよいのではないかと意見ですが、各項目でこれはBではなくてAではないかというような御意見ございませんか。

○加藤委員 4ページの診療体制の維持向上、(3)のところですが、常勤医師数、令和6年度目標42名、実質45名で3名増えているんですね。今この時期に医者を増やすというのは大変な努力が必要でして、3名増えていますし、しかもその中では総合診療医が増えているんですね。総合診療医というのはさんむ医療センターのような病院には本当に必要な医者でして、どの病院でもやはり中小病院は総合診療医が不足で困っているんです。それをこれだけ増やせたということで、これはB評価ではなくA評価でよろしいのではないかと思います。

○村上委員長 私もそう思います。

その次の休日体制も、今回は移転の影響による減少で、できる範囲で行ったわけですから、わざわざC評価にしなくても、B評価でよろしいのではないかと思います。いかがでしょうか。亀田先生、何か御意見ございますか。

○亀田委員 はい。いいと思います。

○村上委員長 その次の救急の受入件数もC評価にしていますが、これも移転に伴っての減少ですから、C評価にする必要はないと思いますので、これもB評価でよろしいのではないのでしょうか。

○亀田委員 いいと思います。ちなみに、先週、厚労省の方にお話を伺ったんですけれども、2040 年に向けての構想を厚労省がつくっているということで、これからさんむ医療センターのような地域のビジョンなり、高齢者をたくさん受け入れる救急のできる病院というのを評価していくというようになってくるようですので、救急のところは今後、カテゴリーの名前も変わってくるようなので、特に高齢者の救急の受入れというのは病院の一つの評価につながってくる可能性は高いと思います。

○村上委員長 ありがとうございます。懸川先生、何か評価に御意見ございますか。

○懸川委員 個人的には、ずっと病院の薬剤師さんの補充をお願いしていて、結果的にはまだこの地域で増やす活動はうまくいっていないんですけれども、御協力いただいて、評価にはそういう項目はないのですが、そういうコメディカルの方の補充のところもしっかりやられていると思います。先生方のB評価とC評価をA評価とB評価に変えるという御意見についても、いい考えだと思いました。

○村上委員長 井上先生、いかがですか。

○井上委員 先生方の御意見、もっともだと思いますので、特に異論はありません。あと、分娩数のことに関してですが、従来、助産師の資格を取るためには学生のときに正常分娩を10例取らないといけなかったんですが、コロナもあって、ほぼ、どの学校も10例が達成できないということで、今、いろいろな調査が行われています。もう一つは、コロナを経て、助産師を志望する人が非常に少なくなっていて、うちの大学も来年から助産師課程は閉じることを早々に決定してしまいました。そういう状況にあるので、将来的な人材育成をやらないと、本当に助産は危機的だと感じています。

以上です。

○村上委員長 助産師の確保について、今後どういう方針になっているのでしょうか。何かやっているんですか。

○井上委員 国の政策的なところまでは存じ上げておりませんが、看護全体の学生の志望

者数がかなり下がってきていて、特に私立大学は存亡の危機というところも結構ありますので、助産師に限りませんが、本当にコロナでこんな大変な仕事ということで、全体的に志望者が減っているというのが厳しいところです。すみません、解決策がなくて。

○村上委員長 ありがとうございます。ちなみに、当院では今後どうするつもりなんですか。地域の要望に応えるためにはお産をやらないわけにいかないわけですが、助産師が4人減っただけでできない状況になってしまったということで、今後の対策はどうお考えですか。

○篠原院長 病院長の篠原でございます。とても答えづらい、苦しい質問でございまして、日本中の地域で出産が難しくなっている中で、当院も郡部では頑張って、年々つないできたところなんですけれども、中堅の助産師さんの数名が過労で、令和6年2月に出産ができなくなりました。その当時は、産科医も2名いたんですけれども、1名は自治医大から来ていただいた先生で、年季が3月に明けてしまって、現在は60歳近い産科医が1名の状況です。そういった県内の状況の一覧表をいただいてきましたけれども、今、産科医が最低5名ぐらいいないと、お産をやらないという施設もありまして、近隣の東千葉メディカルセンターは今3名でやっていますけれども、ほぼ昼間と夜、東京から助っ人が来てくれるような状況で頑張っているらしいので、ハードルが途方もなく高いんですけれども、いつまでこれを掲げてやっていくのか、市長さんと山武市と相談しながらやっていかなければいけないことなので、私の個人的な見識で決めることがとても難しい状況でございます。

○村上委員長 説明では、助産師が減ったために、お産ができなくなったという説明でしたが、助産師さんだけの問題ではないんですね。よく2人でやってきたなと思いますけれど、今度は産科医が1人になってしまったんですね。

○篠原院長 奨学生と面談しても、助産師志望の方は結構いらっしゃって、私の印象では、お産をしたがらない産科医とお産をしたがる助産師さんというパラドックスのような構造だと認識していたのですが、井上先生のお話で、助産師を志望する若者も減っているというのはとてもつらい現実ですね。

○村上委員長 この問題はここだけの問題じゃなくて、今回の経営赤字のそれよりも日本全体の問題なんですね。それが影響ですね。分かりました。

何かほかに御意見ございませんか。

ほかになければ、このままこれを認めるとしてよろしいですか。

長先生も、よろしいですか。

○長委員 了解です。

○村上委員長 では、この評価で、このまま認めるということによろしゅうございますか。亀田先生も井上先生もよろしいですか。よろしいですね。

この評価をこのまま認めて、先ほどのところを少し訂正していただければと思います。各委員からの意見を事務局で取りまとめて、後日、内容の御確認をお願いします。

そのほかに移ります。皆さんから何かございますか。

ないようでしたら、事務局、何かありますか。

ないようですので、以上をもちまして、議長の任を解かせていただきます。

○司会 村上委員長、議事進行、誠にありがとうございました。各委員の皆様におかれましても、長時間にわたり貴重な御意見をいただきありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、令和7年度第1回地方独立行政法人さんむ医療センター評価委員会を終了させていただきます。皆様、お疲れさまでした。ありがとうございました。

◎閉 会 （午後2時45分）